

令和5年2月 月例報告

2月初めのグラウンド・ホック・デーを過ぎても寒さは続きますが、春が待ち遠しくなります。今年は例年よりも暖かい日が多いようです。私がトロントの前に住んでいたオタワの冬の名物であるリドー運河のスケートは暖かさのため、今年はスケートができない冬になりそうです。トロント郊外のスキー場も今年は残念ながら雪質がよくありません。

天皇誕生日レセプション

2月23日、3年ぶりとなる有人の天皇誕生日レセプションを日系文化会館で実施しました。当日の天候が心配されましたが、300名を越える方々にご出席をいただき、本年63歳となりました天皇陛下のお誕生日をお祝いすることができました。

レセプションでは1月に訪日をされたキング・サーマ・オンタリオ州インフラ大臣にご挨拶をいただきました。大臣はご挨拶の中で日本出張の印象を熱く語られ、今後の協力について期待を述べられました。(佐々山総領事の挨拶はこちら

https://www.toronto.ca.emb-japan.go.jp/itpr_en/11_000001_00412.html

)また、ミシサガご出身のビクター・オー上院議員からもご挨拶をいただきました。日本とカナダの国歌をエリザベス・サントスさんが熱唱。ご招待客に対してお寿司と天ぷら、卵焼き、焼き魚、また日本の街の味として牛丼を振舞いました。レセプションに併せてご出張いただいた、日本の国税庁と日本の業者の方からは日本酒を振る舞っていただきました。

雪が降り続く天候のなか、本当に多くの方に会場にお越しいただきありがとうございました。対面で多くの方とお話することができ、大変に有意義な行事であったと思います。





マカリオン前ミシサガ市長ご葬儀

今年1月に亡くなられたヘイゼル・マカリオン前市長の葬儀が2月14日に行われました。もしお元気であれば前市長が102歳の誕生日となるバレンタインデーの日でした。葬儀には、トルドー首相、クレティエン元首相、フォード・オンタリオ州首相、クロン

ビー・ミシサガ市長を始め政財界の要人、生前ご縁のあった方々が出席されました。ミシサガ市が唯一の姉妹都市関係を有している刈谷市からも弔電が届けられました。

マカリオン前市長は生前「ハリケーン・ヘイゼル」との異名をとっておられました。女性の地位向上や日系企業の誘致また女子スポーツの振興にも熱心でした。葬儀の会場は彼女が建設したアイスホッケー場です。生前の彼女のエネルギッシュな活躍ぶりがユーモアたっぷりに出席の皆様から語られました。

歴代のトロント日本総領事は、マカリオン前市長の薫陶を受けてきました。私もその1人で何度か直接お話を伺い、また公邸にも来ていただいたことがあります。ご高齢ながら、会ってすぐ人を見抜く洞察力の鋭さ、それを踏まえてなんにでも暖かく的確にアドバイスを下さる聡明さ。本当に素晴らしい方でした。これまでのご活躍に改めて感謝しつつご冥福をお祈りしたいと思います。

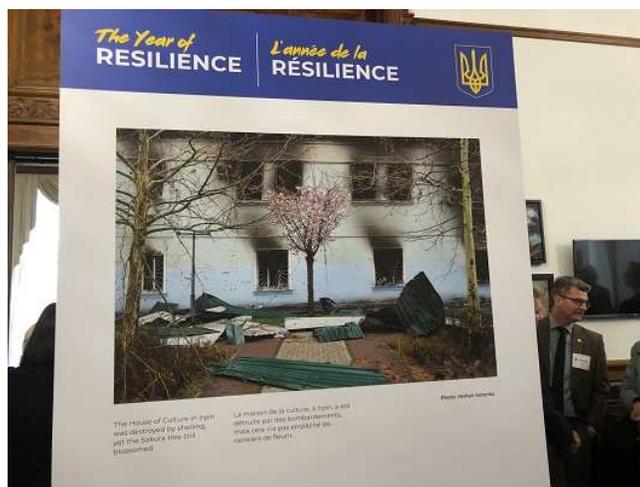




ウクライナ 1 周年

ロシアによるウクライナ侵略という、国際秩序の根幹を揺るがす暴挙が始まってから 1 年となります。オンタリオ州のドズウェル総督はこの機にオンタリオ州のウクライナへの支援をより力強いものとするためにオンタリオ州議会内の副総督のギャラリーで当地ウクライナ総領事館とともに写真展を開催されました。

再開される州議会の会期にも合わせたとの事でした。写真展では戦争の現実、今を伝える生々しい写真が数多く展示され、心が打たれました。その中で 1 枚の写真を紹介したいと思います。破壊されたアパートの前に、それでも咲く 1 本の桜。厳しい現実の中にも希望がある象徴だと受け止めました。





齋藤正樹シェフへの日本食普及の親善大使任命

「Sushi Masaki Saito」の齋藤シェフがこのたび日本の農林水産省より「日本食普及の親善大使」に任命されました。親善大使は、プロの視点に立って海外の日本料理関係者等へ助言することなどを通じて、国内外への日本食・食文化の普及を行うものとされています。齋藤シェフは、カナダでただ一人、ミシュラン・ガイドのカナダの「星」を2つ獲得されています。またその活躍は、昨年のグローブアンドメール紙も大きく取り上げました。トロントの和食人気の勢いはとどまるところを知らない状況です。これを機に齋藤シェフのますますの活躍を期待したいと思います。

